

交通難民を救え！ 推しさと戦隊

愛のリレンジャー

○未完のお話○
宮崎 正義
坂口 唯華
主海 勇心
保久上 もえみ
森 仁胤

BACK GROUND

ターゲット：河内町大多尾地区

- ・高齢化率：西区全体の平均 30.3% 芳野地区 42.0% (西区内で最高)
- ・高齢者のみで生活する世帯が多く子世代は成人すると市街地へ転出する傾向
⇒ 過疎化・高齢化による地域の担い手不足・地域コミュニティ力の低下

- ・生活インフラ（病院やスーパー）まで10km以上の距離があり、車で約20分、徒歩で2時間の移動が必要
- ・乗合タクシー（バス等の公共交通機関の廃止・減便の代替策）：運行本数は少なく、要予約制
⇒ **自動車利用が必須化** 地域外に住む親族から送迎等の援助をってもらう世帯も多いが限界がある
⇒ 距離的な問題から、親族の頻繁な見守りが難しくなっている ⇒ **社会的な孤立**



MISSION

過疎地域で暮らす住民の「生活の足」を確保せよ！

過疎地域で暮らす住民の見守り体制を強化せよ！

POLICY

コストシェア型相乗り制度の導入
「公共交通空白地有償運送」登録

スマートメーターによる共助関係強化

○相乗り制度の先進事例

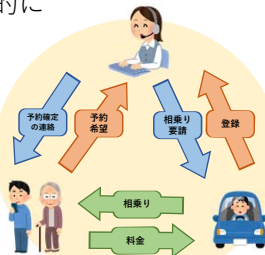
- ・北海道天塩町『天塩-稚内間 相乗り交通事業』
「notteco」を利用して、天塩町～稚内市間を住民同士の車の相乗りで移動できるようにした
- ・京都府丹後町（現・京丹後町）『ささえ合い交通』
道路運送法第78条第2号「公共交通空白地有償運送」に登録
Uber社の配車サービスアプリを利用したマッチングを実現

○コストシェア型相乗り制度

市民ドライバーが自家用車を使って、同じ場所に行きたい人を輸送する仕組み
利用者は、移送にかかる実費のみ負担する

○コストシェア型相乗り制度の相乗り制度の導入

相乗りのためのマッチングサービスを提供する会社と提携し、地域を限定的にしたコストシェア型の相乗り制度を導入する



○「公共交通空白地有償運送」登録

将来的に、地域自治会やNPO法人が運営主体となれば、地域の力で運営が可能

○効果

- ・公共交通機関の維持に必要とされる膨大な費用なしに、過疎地域の住民が交通手段を確保できる
- ・観光等に利用できれば、交流人口を拡大させ、地域活性化につながる事が期待される

○スマートメーターとは

電気・ガス・水道等の使用量をデジタルで計測し、通信機能を併せ持つ測定器

○スマート水道メーターの活用

スマート水道メーターを設置し、利用量を自動検針により計測

○スマートメーターによる共助関係強化

水道の使用状況を把握し、一定時間使用がない等の変化があった場合に、事前に登録された親族や**近隣住民**に知らせる見守りサービスを展開

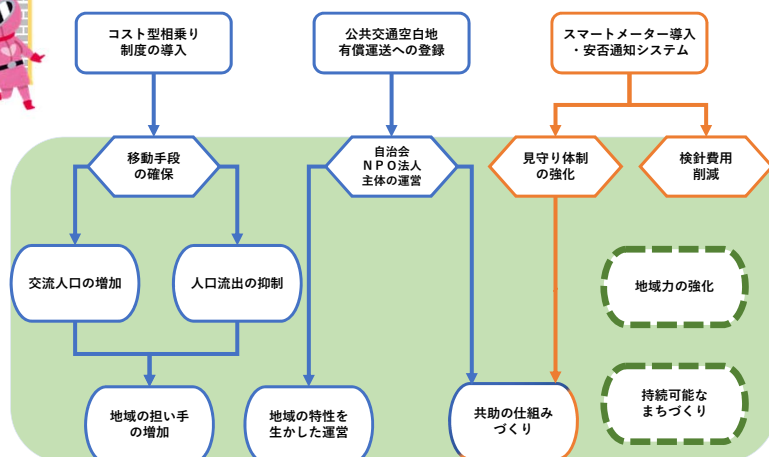


○効果

- ・山間部遠隔地の検針費用を削減
水道サービスの安定供給を継続する
- ・見守りサービスを提供し、遠隔地から親族の生活状況を把握することを可能にする
- ・近隣住民に住民の安否情報を知らせることで、「**見守り合う**」体制を整備し、有事の際の迅速な対応を可能にする

EFFECT & FUTURE

○政策による効果



○「ふるさと」を残すまちづくり

- ・過疎地域で暮らす住民のより良い暮らしのためには、住民同士による助け合いや協力関係の強化が不可欠
- ・高齢社会・人口減少社会においては、予算や人員に限りがあり、新たな技術やシステムを使った地域づくりが注目されている

⇒ 今後、「ふるさと」を残しつつづけるためには、行政が地域コミュニティの持続・強化のため、既存の制度やシステムにとられない仕組みづくりを行い、その後、住民同士によって、その仕組みを持続、活性化していくことが重要

⇒ **誰一人取り残さないまち**を目指そう！